

3
ミカ
聖徒伝 159

「すべての罪は 深みに投げこめ」

ミカ書6～7章

イスラエルの罪と罰と神の恵み

アウトライン

0. イントロダクション

I. 神の法廷でのイスラエル 6章

II. 大患難時代と最終的回復 7章

III. まとめと適用

世の終わりの宣教とは？

御言葉こそが、最短ルート



シナイの山々



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

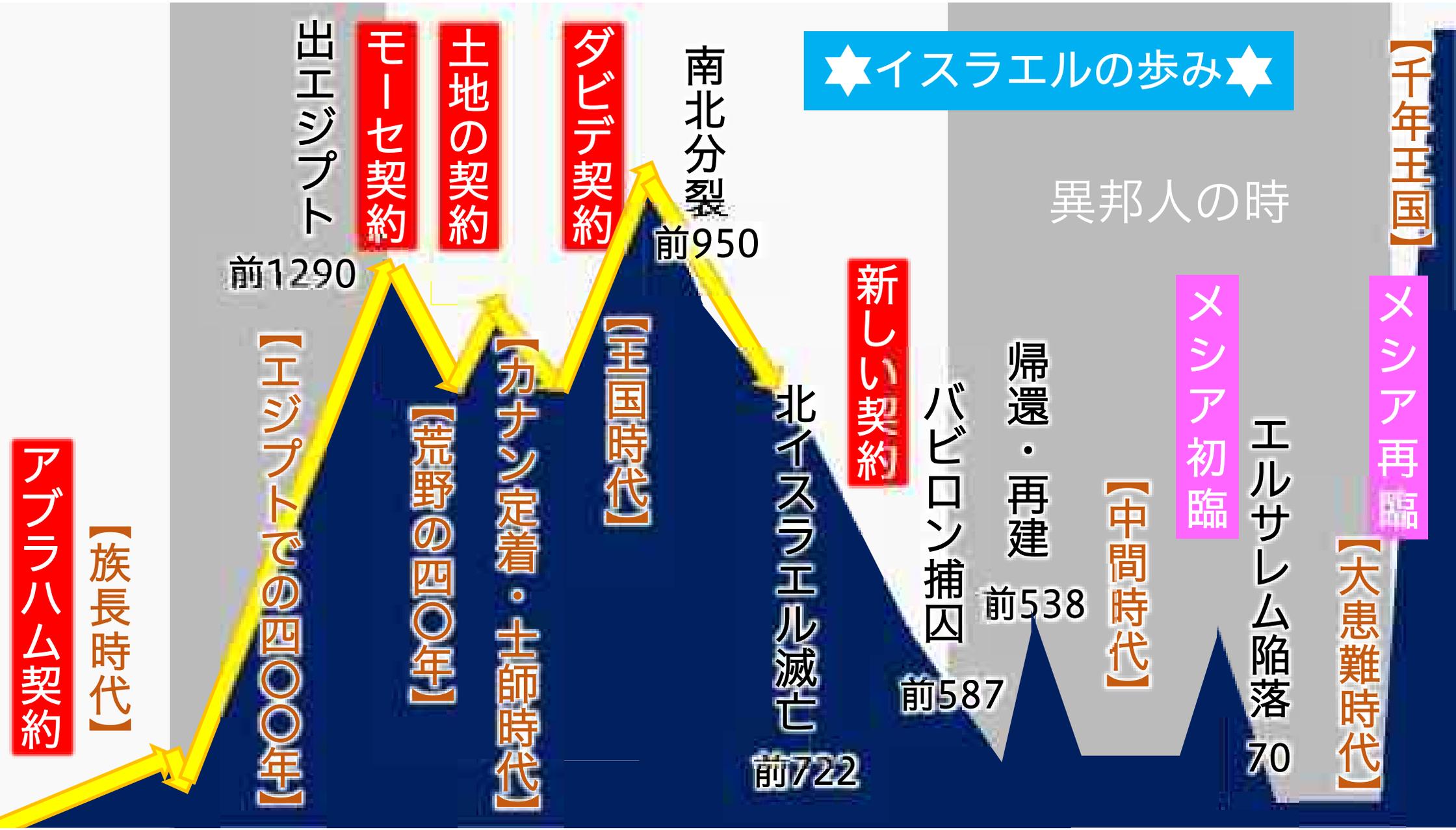
神の約束こそが
その時代の守り

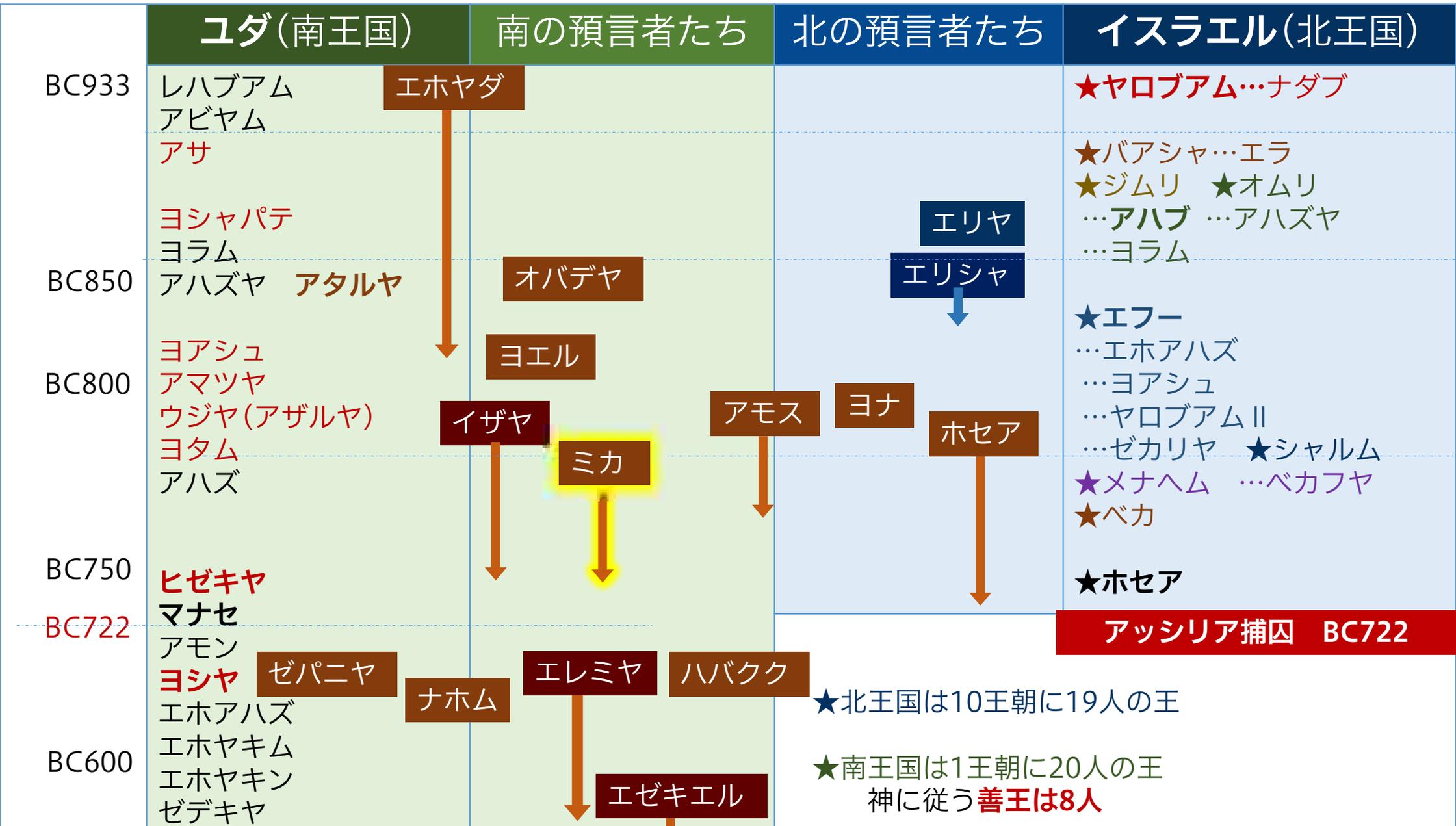
過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★





北王国
イスラエル

南王国
ユダ

ホセア

アモス

ベカ

20年

ホセア

9年

混沌の時代

アッシリア捕囚①

アッシリア捕囚②

ヤロブアムⅡ

41年

ゼカリヤ

6ヶ月

シャルル

1ヶ月

メナヘム

10年

ベカフヤ

2年

滅亡の時代

南北時代の最盛期

ヨナ

29年

アマツヤ ♡

ウジヤ ♡

52年

ヨタム ♡

16年

アハズ ☠

16年

ヒゼキヤ ♡

29年

ミカ

イザヤ

預言者ミカとは？

- 北王国に捕囚の滅亡が迫る時代の**南王国**で活躍。同世代のイザヤは都会人、ミカは地方出身。
- 出身は**モレシエテ・ガテ**（ガテの所有物）ペリシテとの境界の町（ガテはペリシテの都市）善王の時代には、ユダに。
悪王の時代には、ペリシテに。
→ 王国の信仰の状況に常に左右された。
- 北王国の滅亡、南王国への**神の裁き**を告げた。「避けられない神のきよめの裁きが来る」と。



【預言者視点で見る預言書は、こんな感じ？ 実際は？】



【預言者たちの告げたこと】



南北時代

➡ ① 直近の
苦難

メシア初臨

➡ ② 主の日
大患難時代

➡ ③ 回復
メシア再臨

天上の礼拝

大患難時代



14万4千人による世界宣教



ユダヤ人大迫害



御国の時代

教会時代



携拳

封印の
裁き

ラッパの
裁き

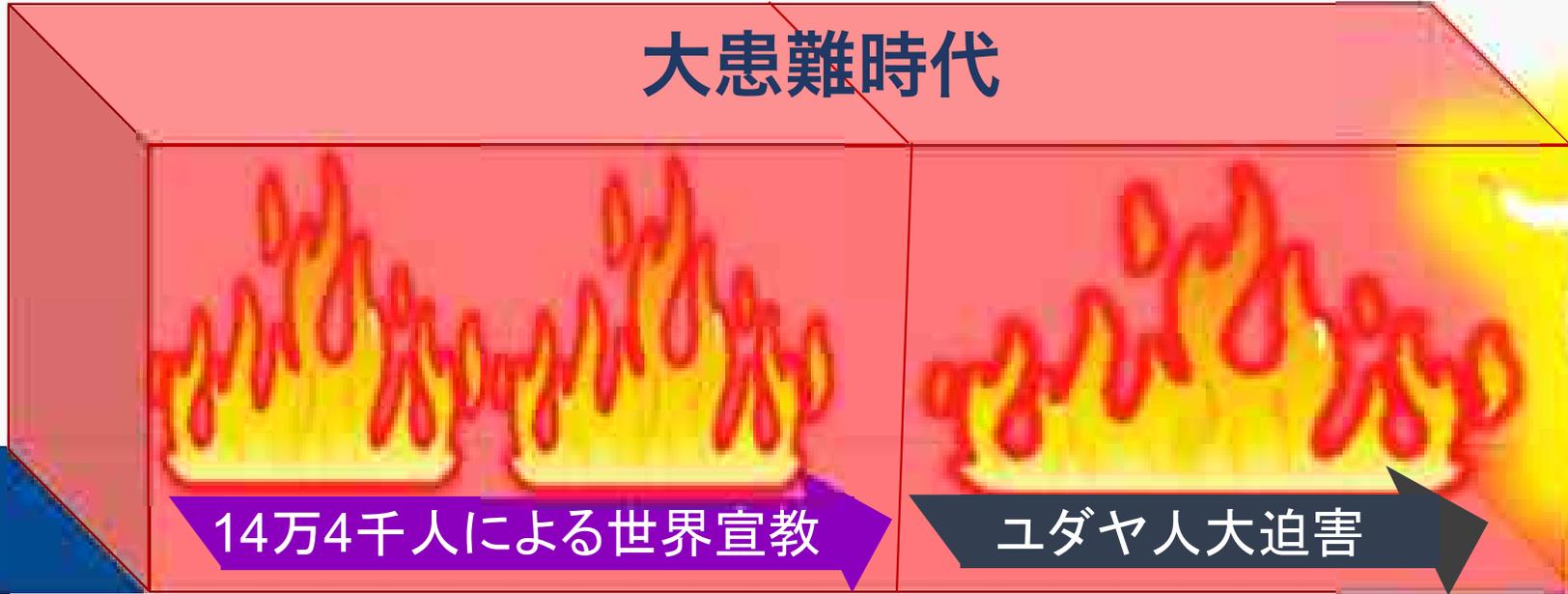
鉢の裁き

メシア再臨
イスラエルの
民族的回心

天上の礼拝



大患難時代



14万4千人による世界宣教

ユダヤ人大迫害

御心の時代

教会時代

携挙

封印の
裁き

ラッパの
裁き

鉢の裁き

メシア再臨
イスラエルの
民族的回心

大患難時代の7年

- ① 携拳の後、反キリストがイスラエルと契約。
- ② 大患難時代前半・3年半
 - ★ 人類の1/3の死、世界の1/3の破滅
 - ★ 14万4千人のユダヤ人による世界宣教
- ③ 大患難時代後半・3年半
 - ★ 人類の2/3の死、世界の2/3の破滅に至る。
 - ★ 反キリストのユダヤ人大迫害、2/3の死
 - ★ 最終戦争(ハルマゲドン)
 - ★ 1/3の生き残ったイスラエルの民族的回心
- ④ 主イエスの再臨 …諸民族の裁き、千年王国へ





Ⅰ. 神の法廷でのイスラエル

ミカ書6章

ミカの呼びかけ 証人の山々 ミカ6:1~2

さあ、【主】の言われることを聞け。立ち上がれ。山々に訴えよ*。もろもろの丘にあなたの声を聞かせよ。

山々よ、聞け*。【主】の訴えを。変わるもののない地の基よ。【主】がご自分の民を訴え、イスラエルと論争される。

*山々が証人であり判事。

➡不動の山は、誕生以来のイスラエルをずっと見続けてきた。これ以上ない証人。



ネゲブの山地

神の訴え 出エジプトの恵み ミカ6:3~4

「わたしの民よ、わたしがあなたに何をした
というのか。どのようにしてあなたを煩わせ
たというのか。わたしに答えよ。

わたしはあなたをエジプトの地から上らせ、
奴隷の家からあなたを贖い出し、あなたの前
にモーセと、アロンと、ミリアムを送った」

- 主が、モーセらを指導者として立て、
イスラエルを奴隷から解放された。
➔ 一方的な恵みがイスラエルの始まり。



神の訴え イスラエルの守り ミカ6:5

「わたしの民よ、思い起こせ。モアブの王バラク*が何を企んだか。ベオルの子バラム*が彼に何と答えたか。シティムからギルガルまで*に何があったか。それは、あなたが【主】の正しいわざを知るためであった。」

*バラクは呪術師バラムにイスラエルを呪わせたが、口から出たのは祝福の言葉だった。

*シティム…荒野の最後の居留地

ギルガル…約束の地の最初の居留地



イスラエルの逡巡 献げ物 ミカ6:6~7

何をもって、私は【主】の前に進み行き、いと高き神の前にひれ伏そうか。全焼のささげ物、一歳の子牛をもって御前に進み行くべきだろうか。【主】は幾千の雄羊、幾万の油を喜ばれるだろうか。私の背きのために、私の長子*を、私のたましいの罪のために、胎の実*を献げるべきだろうか。

*アブラハムはイサクを献げたが…。

■悔い改めもなく、形ばかりの礼拝にとらわれているイスラエルの不信仰。



信仰なき献げ物に
意味はない

ミカの嘆き 主が求める公正 ミカ6:8

主はあなたに告げられた。人よ、何が良いことなのか、【主】があなたに何を求めておられるのかを。それは、ただ公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むこと*ではないか。

*律法が教え、命じていること



主の叫び 汚された権威 ミカ6:9~10

【主】の御声が都に向かって叫ぶ。——あなたの御名を恐れることは英知だ——「聞け、杖*の^{こと}を。だれがその都を指定したのか。

まだ、悪しき者の家には、不正の財宝*と、のろわれた^{升目不足の}升*があるではないか。」

*王笏 …王に権威を与えたのは主

*献げるべきを^{献げず}に貯め込んだ財。

→不正な財は主ご自身にとりあげられる。

*不法な商取引、民の搾取の象徴

■貪欲な守銭奴は、不信仰者の極み。



献げ物を伴わない
信仰などない

神の宣告 不正と偽り ミカ6:11～12

不正な秤と、欺きの重り石の袋*を、誤りなしとすることが、わたしにできるだろうか。
富む者たちは不法で満ち、住民は偽りを言う*。彼らの口の中で舌が欺く。

*不正な商取引は、律法が禁じていること。

*偽証は、十戒の一つ。死に値する重い罪。

「出 20:16 あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。」



神の宣告 主による滅び ミカ6:13~14

「わたしも、あなたを打って痛めつけ、あなたの罪のゆえに荒れ果てるままにする。

あなたは食べても満ち足りず、あなたの腹は飢える。取っておいても保つことはできず、保っていたものは、わたしが剣に渡す*。」

*略奪される。

■イスラエルが罪の結果招いたのは…

- ①アッシリア捕囚、バビロン捕囚
- ②ローマによるエルサレム陥落

→そして、世の終わりの**大患難時代**



神の宣告 奪われる収穫 ミカ6:15

「種を蒔いても、刈ることがなく、オリーブを搾っても、油を身に塗ることがない。新しいぶどう酒も、それを飲むことがない。」

■土地の産物の良いものはすべて略奪される。



神の宣告 積み重ねられた罪 ミカ6:16

「あなたはオムリの掟*と、アハブの家*のすべての慣わしを守った。あなたがたは、彼らのはかりごとに従って歩んだ。それは、わたしがあなたを恐怖のもととし、住民を嘲りの的とするためだ。あなたがたは、わたしの民へのそしりを負う。」

*歴代最悪の王朝を生んだのがオムリ。

息子のアハブ王が、歴代の最悪の王。

■後の北王国の王も、ことごとく主に背き、神の厳しい裁きを招き寄せることに!!



アハブの死



II. 大患難時代と最終的回復

ミカ書 4 章

シナイの荒野

大患難時代 干上がった収穫 ミカ7:1

ああ、なんと悲しいことだ。私は夏の果物*を集める者のよう、ぶどうの取り残しの実*を取り入れる時のようになった。食べられる房は一つもなく、私の好きな初なりのいちじくの実*もない。

*乾季の夏に、収穫はない。

*枝に取り残された干しぶどう。

*イスラエルの残れる信仰者・レムナント

■信仰者が一人もいない。➡携拳後の状況

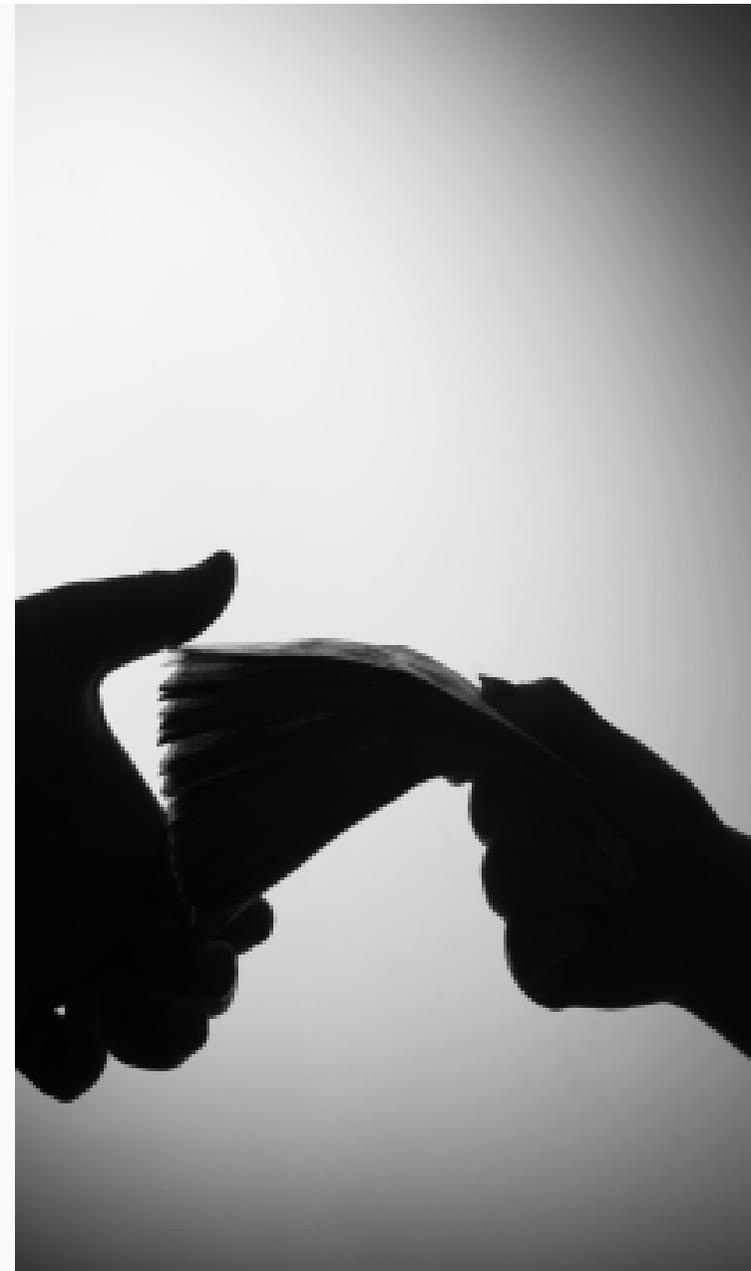


大患難時代 極まる悪 ミカ7:2~3

敬虔な者はこの地から消え失せ、人々の間に、心の直ぐな者は一人もいない。みな血を流そうと待ち伏せし、互いに網をかけ合って捕らえようとする。

彼らの手は悪事を働くのに巧みで、役人もさばき人も賄賂を求める。有力者は自分の欲するままを語り、こうして事をねじ曲げている。

- 教会(真の信仰者)が消失した地上は、悪で満たされる。大洪水以前以上の状態に!!



大患難時代 失われた信頼関係 ミカ7:4~5

彼らのうちの善良な人も茨のようだ。心の直ぐな者も茨の生け垣に劣る。あなたを見張る者の日、あなたの刑罰の日*が来る。今、彼らに混乱が起きる。

あなたがたは友を信用するな。親しい友も信頼するな。あなたの懐に寝る者からも、あなたの口の戸を守れ*。

*主の日、神によるイスラエルの裁きの時。

*夫婦の間にも信用はなくなる。



大患難時代 引き裂かれた家族 ミカ7:6

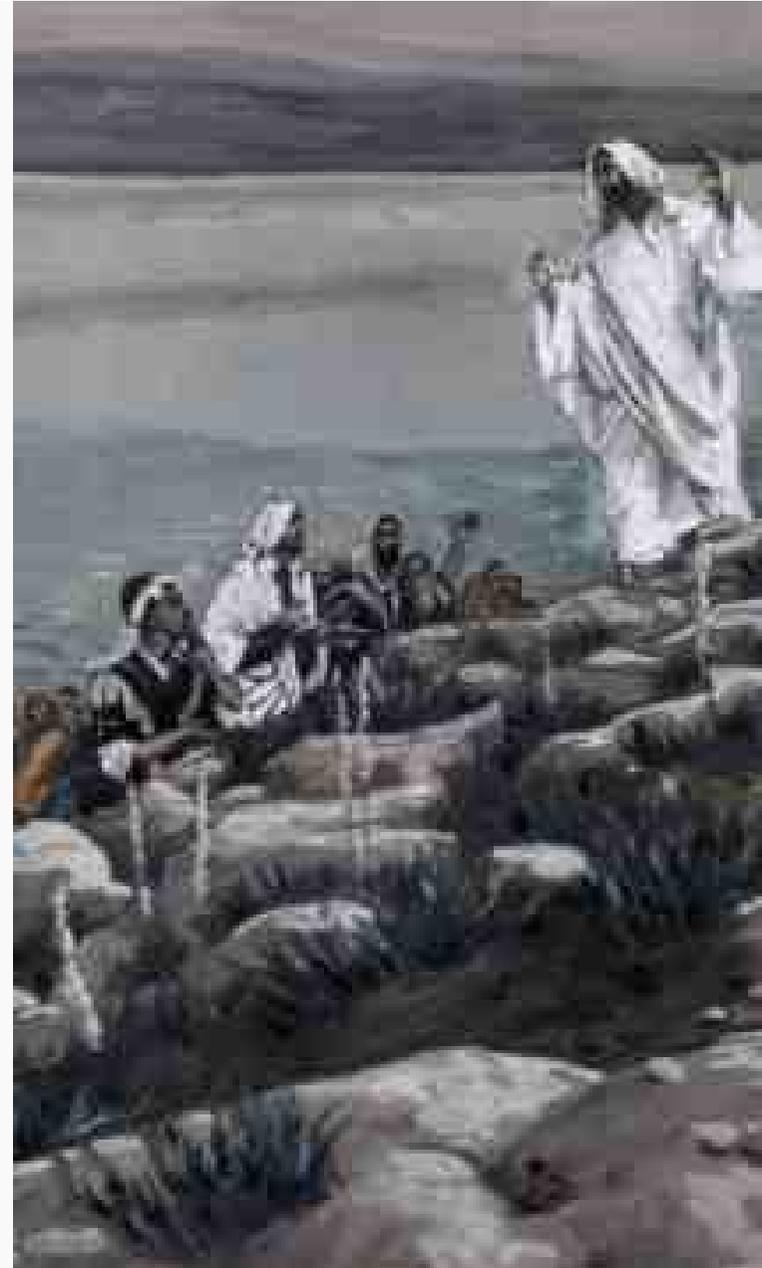
子は父を侮り、娘はその母に、嫁はその姑に逆らい、それぞれ自分の家の者を敵とする。

■ 主イエスによる引用 マタイ10:35～36

「わたしは、人をその父に、娘をその母に、嫁をその姑に逆らわせるために来たのです。

そのようにして家の者たちがその人の敵となるのです。」

➡ 家族の中でも信仰を巡る敵対が生じ、
イスラエルは徹底して試される。



終末の希望 信仰者の望み ミカ7:7~8

しかし、私は【主】を仰ぎ見、私の救いの神を待ち望む。私の神は私の言うことを聞いてくださる。私の敵よ、私のことで喜ぶな。私は倒れても起き上がる。私は闇の中に座しても、【主】が私の光だ。

- ミカが思うのは、イスラエルの残れる者。
 - ➔ 大患難時代にも悔い改めた信仰者が!!
- 信仰者は、倒され、闇の中に座す時がある。
 - ➔ それでも主を信頼するなら、私は再び、起き上がらされ、主が私の光となる。



終末の希望 神の民の希望 ミカ7:9

私は【主】の激しい怒り*を身に受けている。
私が主の前に罪ある者だからだ。しかし、それは、主が私の訴えを取り上げ、私を正しくさばいてくださるまでだ。主は私を光に連れ出してくださる。私は、その義を見る*。

*大患難時代は、イスラエルへの裁きの時

*メシアの再臨…イスラエルの民族的救い

■「私 = イスラエル」として、大患難時代の残れる者に身を重ねて語るミカ。



預言者の使命

回復の希望 主イエスの裁き ミカ7:10~11

私の敵はこれを見て恥におおわれる。彼らは、私に向かって「あなたの神、【主】は、どこにいるのか」と言った者たちだ。私の目は、確かに見る。今に、敵は道の泥のように踏みつけられる。あなたの石垣を建て直す日*、その日、国境が広げられる*。

*主イエスにより神の国が建てられる。

→イスラエルは広大な国土を持つ、世界の中心の国とされる。



諸国の裁き 大宣教と大迫害 ミカ7:12~13

その日、アッシリアとエジプト*の町々から、エジプトから大河まで、海から海まで、山から山まで、あなたのところに人々がやって来る。しかし、その地は、そこに住む者たちのゆえに、彼らの行いの実によって荒れ果てる。

*北と南の大国。異邦人を象徴。

■大患難時代に、多くの異邦人も、主イエスを信じて救われる。信者は、大迫害に遭い、異邦人の地も荒れ廃れる。



回復の希望 安寧の願い ミカ7:14

どうか、あなたの杖で、あなたの民を、あなたのゆずりの群れを牧してください。彼らは林の中、果樹園*の中に、ひとり離れて住んでいます。どうか、彼らが昔の日のように、バシャンとギレアデ*で草をはむようにしてください。

*原文では、“カルメル”

→エリヤら、戦う預言者の拠点の一つ。

*本来は、牧畜に最適な豊かな牧草地。

→最も厳しく常に敵の侵略にさらされた。



諸国の裁き 奇しいわざ ミカ7:15~16

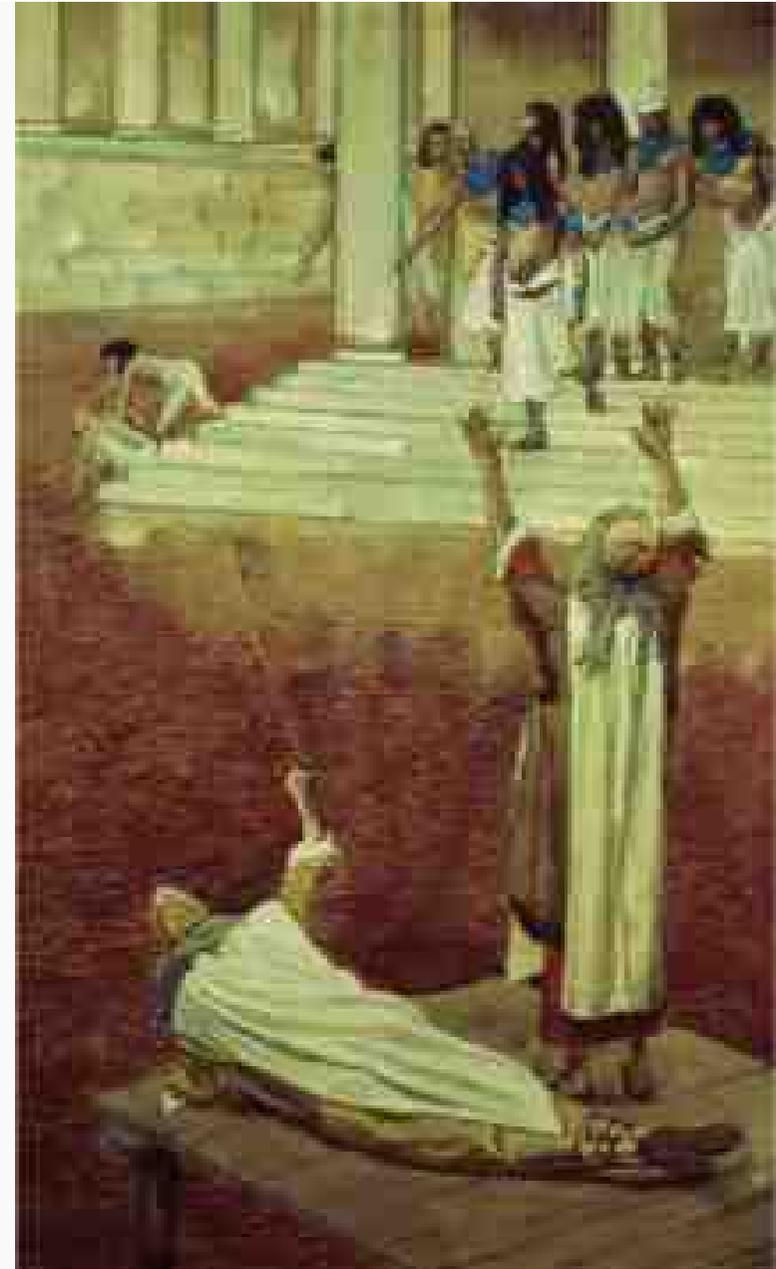
「あなたがエジプトの地から出た日*のように、わたしは奇しいわざ*を彼らに見せる。」

諸国の民は見て、自分たちのすべての力を恥じ、手を口に当て、彼らの耳は聞こえなくなります。

*十の災いがエジプトを襲った。

→大患難時代、はるかに苛烈な災厄が!!

■神に背く異邦人は、沈黙し、頑なさを極める。



諸国の裁き 主の裁き ミカ7:17

彼らは、蛇のように、地を這うもののよう
に土をなめ*、震えながら自分たちの洞穴か
ら出て来ます。そして、私たちの神、【主】
のみもとで、おじ惑い、あなたを恐れます。

*罪に墮し、辱めの極みを受けた様子。

■主イエスの再臨の後、大患難時代を生き
のびたすべての異邦人は、裁きを受ける。

羊(ユダヤ人を助けた者)→神の国へ

やぎ(ユダヤ人を迫害した者)→陰府へ



回復の希望 恵みを喜ぶ神 ミカ7:18

あなたのような神が、ほかにあるでしょうか*。
あなたは咎を除き、ご自分のゆずりである残りの者*のために、背きを見過ごしてくださる神。
いつまでも怒り続けることはありません。神は、恵みを喜ばれるからです。

*ミカの名の意味と同じ。

*イスラエルの残れる信仰者・レムナント

■ 義と愛の神が切に願い、喜ばれるのは、
罪人が悔い改め、恵みにあずかること。



回復の希望 アブラハム契約 ミカ7:19~20

もう一度、私たちをあわれみ、私たちの咎を踏みつけて、すべての罪を海の深みに投げ込んでください。昔、私たちの父祖たちに誓われた*ように、ヤコブにまことを、アブラハムに恵みをお与えください。

*アブラハム契約

■アブラハムとの主の約束は、永遠の恵み。

- ①子孫の繁栄
- ②土地の授与
- ③メシアによる祝福 → 全信仰者の救い





IV. まとめと適用

世の終わりの宣教とは？
御言葉こそが最短ルート

大患難時代の意味

■ イスラエルに対する最終的な裁きの時

→ 反キリストによる大迫害により、2/3は滅ぼされる。

■ イスラエルの残された信仰者の救いの時

→ 最終戦争を経て、残された1/3が民族回心に至る。

■ 異邦人の裁きの時

→ 生きのびた1/3は、メシアに裁かれる。羊か。ヤギか。

イスラエルの最終的な救いの希望は、主の日にある!!

イスラエルにも異邦人にも、変わらない救いの原則

- アブラハムは、啓示された**主の約束**を、ただ信じて義と認められた。
- 子孫イスラエルは、**アブラハムへの約束**ゆえに、存在できている。
- しかし、ユダヤ人だから、無条件に救われるわけではない。
 - ➔ その時代に与えられた、**神の啓示**を信じて義と認められる。
- 律法は、アブラハムに約束された、神の救いを指し示す。
 - ➔ 旧約時代、人は、**約束されたメシア**を信じて救われた。
 - ➔ 教会時代、人は、**十字架と復活のメシア**を信じて救われる。
 - ➔ 大患難時代には、人は、**再臨のメシア**を信じて救われる。

再臨のメシアによる異邦人の裁き

マタイ福音書25章31～36節

人の子は、その栄光を帯びて すべての御使いたちを伴って来る
とき、その栄光の座に着きます。

そして、すべての国の人々が御前に集められます。

人の子は、羊飼いが羊をやぎからより分けるように彼らをより
分け、羊を自分の右に、やぎを左に置きます。

再臨のメシアによる異邦人の裁き

マタイ福音書25章31～36節

それから王は右にいる者たちに言います。

『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられていた御国を受け継ぎなさい。

あなたがたは**わたし**が空腹であったときに食べ物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。』

メシアによる異邦人の裁きの意味

- 大患難時代を生きのびた1/3の異邦人を再臨の主イエスが裁かれる。
 - ① 羊 (迫害されるユダヤ人を助けた異邦人) → 神の国へ
 - ② ヤギ (ユダヤ人を助けなかった異邦人) → 陰府へ
- 「わたし」…イスラエルのメシアこそ、究極的な真実のイスラエル。
 - 第一に求められるのは、真実のイスラエル、メシアへの信頼。
 - メシアを信頼する者は、神の民イスラエルを思い、助ける。
- 異邦人信者は、アブラハム契約の祝福の約束にあずかっている。
 - 接ぎ木された者として、本来の枝の回復を祈り、献げること。
神の約束を理解した信者が、当然に果たすべき責務。

裁きを目前にした

- 裁きを目前にした時代の宣教が、預言者による**預言**だった。
 - ➔ **預言**とは、何も足さず、何も引かない、直接的な神の言葉。
- 裁きが差し迫った状況では、まわりくどい宣教をしている暇はない。
 - ➔ 直接的に、神の啓示を人々にぶつけるしかない。
- 世の終わりに、「日本的な伝道」など模索している場合だろうか？
 - ➔ 神の言葉そのものを伝えることが、宣教の最短ルート
- アッシリア捕囚、バビロン捕囚、裁きが間近に迫った時代に、預言者たちは、神の直接の言葉を告げることに命をかけた。

世の終わりだからこそ、直接の神の御言葉を告げていこう!!

★ 今、伝えるべきことを確認しよう ★

■ イスラエルのメシアとして来られた、主イエス・キリスト。完全に神である方が、完全に人となられ、“私の罪のために、十字架にかけられ、死んで葬られ、三日目に復活された。”

■ 栄光の姿で昇天された主イエスは、王の王として再臨される。信じる者を御許に携拳され、大患難の裁きを下される。罪人を裁き、イスラエルの真実の王として神の国を建てられる。

■ あらゆる機会を捉えて、**福音**を告げ知らせて行こう。聖書から、直接の**神の言葉**を伝えることに最大の力を注ごう。
→ 御言葉を中心にして、御言葉から生活のすべてを発していく。神の裁きの時は近い。かつてなく、主の日、その時は迫っている。

てん とう
「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、^{そむ}罪を^{つみ}重ねてきました。
ひび おか つみ こくはく つみ
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ}神のみ子^こイエス・キリストが、
つみ あがな じゅうじか し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ

②墓に葬られ、

みつかめ ふっかつ

③三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

わたし すく ふくいん つ し もの
私を救ってくださった、この福音を告げ知らせる者としてください。

かつてなく、^{しゅ ひ ちか}主の日は近づいています。

あなたの^{みことば}御言葉を、^{わたし いのち}私の命そのものとしてください。

よげんしゃ みことば い つ もの もち
預言者たちのように、御言葉に生き、告げる者として用いてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」